校長室から **ひがしなら通心**

（R元年度）　茨木市立東奈良小学校　川上　隆　No．４７

令和元年１１月２５日（月）発行

赤色の葉、つながっていく木の命

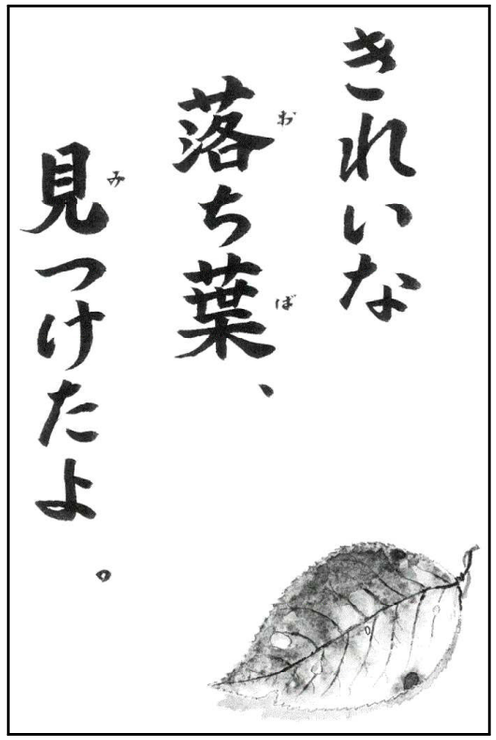
秋も深まり、中庭の木の葉も赤く色づいてきました。春や夏の頃には緑色をしていた葉っぱが、赤や黄色に変わるものがあります。どうしてでしょう･･･。

木は生きていくために栄養が必要です。みなさんが毎日ご飯を食べているように、木は葉っぱで栄養を作ります。葉っぱは地面から木の根っこ、幹、枝を通して水をもらって生きています。緑色の葉っぱには「葉緑素（ようりょくそ）」という緑色のもとがあります。その緑色のもとに、太陽の光が当たると栄養ができます。木はその栄養をもらって生きているのです。

ところが、秋になって冬が近づいてくると太陽の光が弱まってきます。すると葉っぱで栄養を作ることができなくなります。木はそれでも生きていかなければいけません。だから木は、葉っぱに水を送ることをやめます。水がもらえなくなると、葉っぱの中の緑色のもとが壊れて消えます。するともともと葉っぱにあった黄色が見えるようになり、黄色の葉となります。そして緑色のもとが壊れたとき、まだ葉っぱの中に栄養が残っていると壊れた緑色のもとと栄養が反応して赤くなります。だからこの時期、黄色や赤色の葉が多いのですね。

黄色の葉も赤い葉もやがて木から落ちて枯れていきます。地面に落ちた葉っぱは、土の栄養になります。葉っぱがなくなった木は身軽になり、水とほんの少しの栄養で冬を越すことができます。そして春になって太陽に光が強くなる頃、新しい葉っぱが生まれるのです。うまくできていますね。

この季節に見ることができる紅葉の美しさは、私たちの心を感動させます。そしてその美しさには、実は木が生きていくための知恵が隠されていたということに驚きます。人の一生を木の葉にたとえてみると、みなさんは、春の頃の小さな葉っぱかもしれません。太陽の光を浴び、たっぷり栄養を作れる大人の葉に成長しようとする時期です。だから今、知らなかったことや疑問に思うことにたくさん出会い、自分で考えたり調べたりすることを大切にしてください。



人の手による芸術もあれば、
　　大自然が創り出す芸術もある。

大自然には雄大な景色もあれば、
　　色鮮やかな動物もいる。

小さな花の清々しい香りや
　　心落ち着く虫の音もある。

晩秋から初冬の季節の移ろいを感じながら、足下に目を移すと、きれいな落ち葉が目に留まった。

誰が染めたのだろう。誰が食べたのだろう。誰が置いたのだろう。

自然は不思議で美しい。

ひ	とつにみんなでまとまろう！	あ	いさつができる子
が	くりょくと体力をのばそう！	い	っしょうけんめい勉強する子
し	っかりせいかつしよう！	う	んどうが好きな子
な	かよく友だちとすごそう！	え	がおでやさしい子
ら	んらん夢に向かう東奈良っ子！	お	そうじをがんばる子

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」　ロン･クラーク　草思社

ルール３１　つぎの人のために、ドアを押さえていよう

ドアを開けるときに後ろに人がいたら、その人のためにドアを押さえていよう。

●引いて開けるドアなら、まずドアを引き、つぎにわきへよってあとにつづく人を先に通し、そのあときみが通るといい。押して開けるドアなら、まずドアを押してきみが通り、つぎの人のためにドアを押さえていよう。